



新型コロナウイルス感染拡大における地域のつながり方の課題

現在コロナの影響下で、地域でもつながりの強い人と弱い人が分かれています。また、元々人とつながりたくない人など様々であります。つながりの強い人は買い物や通院等に困っていても、誰かの支えがあるため問題なく生活を送ることが出来ます。また、つながりの弱い人は高齢者に限らず、若者にも人とつながり合わない人もいますのでそこに焦点を当ててサポートすることが重要です。つながりたがらない人については状況を把握し、緩やかな見守りで気にかける意識が大切です。支援員や民生委員のような個人に対しての対応レベルでは視線が足りず、地域全体で見守ることが必要で、それが孤独死の防止にもつながります。



新しい生活様式を心掛けましょう

① 身体的距離の確保

- ・ 人との距離は出来るだけ2 m空けましょう

② マスクの着用

- ・ 外出時、屋内に居るときや会話をするときには症状がなくてもマスク着用しましょう

③ 手洗い

- ・ 家に帰ったらまず手や顔を水と石けんで丁寧に洗いましょう（手指消毒薬の使用も可）

④ 買い物

- ・ 買い物は少人数で空いた時間に行きましょう
- ・ レジに並ぶときは前後にスペースを空けましょう

⑤ 公共交通機関の利用

- ・ 交通機関は混んでいる時間帯は避けましょう
- ・ 徒歩や自転車利用も併用しましょう

⑥ 食事

- ・ 食事は持帰りや出前、デリバリーも使いましょう
- ・ 大皿は避けて料理は個々に取りましょう

⑦ 働き方のスタイル

- ・ 仕事はテレワークやオンラインで会議を行いましょう
- ・ 対面での打合せは換気とマスクを着用しましょう

地域のお宝発見～日頃の交流が支え合い活動～ 太田市生活支援体制整備事業

取材先

◇ 宝泉地区 割田さん

オンラインを使ってつながり合う

LINEは離れて暮らす娘さんに教えてもらい、以前から利用されていました。お友達にも使い方を教えてあげて、やり取りを始めたこともあります。コロナで自粛モードになってからもLINEを使ってお友達と「どうしてる？」とやりとりをしたり、癒しの動画を送りあい、励まし合っています。割田さんは「この自粛期間になって、一緒にいなくてもつながれることを実感した。ステイホームでも孤立しているとは感じていない」と話していました。

LINEでつながっていることで孤立感を感じなくなるだけでなく、生活の工夫などの情報交換が出来たり、お互いの刺激になったりして、こういう時だからこそ、こうしたつながり方も大切だと感じました。

手づくりマスクをきっかけにつながり復活

子供が小さい頃は一緒にバーベキューをしたりして交流の多かったご近所さんがいました。しかし子供たちが成長するにつれてお互いに忙しくなり、会った時に挨拶はする程度で以前のように交流はなく、疎遠になってしまいました。ですが最近、割田さんが娘さんご家族に送ってあげるために手作りマスクを作り始めたところ、ちょうどそのご近所さんもお孫さんに送ってあげるためにマスク作りをし始めました。材料を分け合ったり、作り方について情報交換をしたり、疎遠になってしまっていた関係を復活することが出来ました。割田さんは「いろいろなことが自粛になって自分の時間が多くなった今、つながりを見直すことが出来ている。この機会を大切にしたい。」と話していました。



器用に携帯を使っていらっしゃいました



マスクは割田さんお手製

チェックポイント

- ・ 会えなくてもビデオ通話をすることで相手の様子や表情を見ることが出来る
- ・ 友達や家族の絆が深まる
- ・ 自粛生活でも孤立せずに人とつながれる

お問合せ

太田市社会福祉協議会 地域福祉係

〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1 5 4 9

電話 0276-30-0033 FAX 0276-30-0032